高级日语

主编　吴侃　村木新次郎

2

外教社

上海外语教育出版社

主编　吴侃　村木新次郎

高级日语

2

外教社

上海外语教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

高级日语.2/吴侃,(日)村木新次郎主编.—上海:上海外语教育出版社,2003

ISBN 7-81080-777-3

Ⅰ.高… Ⅱ.①吴…②村… Ⅲ.日语—高等学校—教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 007772 号

主编 吴侃 村木新次郎

编者(以姓氏笔画为序)

中方 马安东(浙江大学日语系)
王建民(上海水产大学日语系)
叶琳(南京大学日语系)
吴侃(同济大学日语系)
谈建浩(同济大学日语系)
徐曙(同济大学日语系)
魏铀原(同济大学日语系)

日方 三木麻由美(日本同志社女子大学)
大岛中正(日本同志社女子大学)
今井洋子(日本精华大学)
田口圣子(日本同志社女子大学)
村木新次郎(日本同志社女子大学)
森下训子(日本同志社女子大学)

出版发行: 上海外语教育出版社
(上海外国语大学内) 邮编:200083
电 话: 021-65425300(总机),35051812(发行部)
电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn
网 址: http://www.sflep.com.cn http://www.sflep.com
责任编辑: 应 允

印 刷: 常熟市人民印刷厂
经 销: 新华书店上海发行所
开 本: 787×960 1/16 印张 18.25 字数 379 千字
版 次: 2003 年 8 月第 1 版 2003 年 8 月第 1 次印刷
印 数: 8 000 册

书 号: ISBN 7-81080-777-3 / H·278
定 价: 19.80 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

前　言

近年来，全球化的浪潮以前所未有的速度不断推进。同时，我国在历经20余年的改革开放，并取得了巨大成就之后，又成功地加入了世贸组织，这无疑是我国进一步融入世界体系的一大跨越。在这一形势下，外语的需求也进入了一个新的时期，全国范围内出现了新一轮外语热。日语也和其他语种一样，迎来了一个新的热潮。

但是，尽管需求极大，适用的日语教材，尤其是高级教材却不多，不少教材存在内容陈旧、讲解不尽准确等问题。同时，有些教材只顾及了语言知识的传授以及语言技能的训练，而忽略了对日本社会、文化的介绍和学习，造成了学习日语的学生不懂日本社会的现象。本教材正是针对这一情况而编写的，除传授语言知识外，还侧重对日本社会、文化的介绍和理解，力争在这一方面有所突破。

本教材是以大学本科日语专业3、4年级学生为对象的精读教材。整套教材共4册，1—3册各12课，第4册8课。每课基本由课文、单词、文化・社会、表达、辨析、练习等部分组成。其中“表达(表現)”部分不拘泥于语法体系，涵盖了中国人学日语所需要的各方面内容，并特设专栏，讲解重点。“辨析(使い分け)”栏目主要讲解日语中容易混淆的一些语法现象、单词、句型、读法等。练习部分侧重“高级”阶段所需要的语言训练和文章理解。

本教材由中日双方共同编写。中日双方共同负责搜集课文素材，撰写“辨析”栏目；日方负责撰写“文化・社会”专栏、“表达”专栏，以及最终审稿；中方负责编写生词表、“表达”部分和练习部分。

在迎来新世纪的时刻，在总结以往中国的日语教学经验和教训的基础上，我们推出本教材，愿为使中国的日语教学更上一个新台阶而贡献微力。不足之处，望广大同仁予以批评指正。

本教材在编写过程中得到了日本国际交流基金的资助，在此表示由衷的感谢。

本教材所选用的文章的原作者欣然允诺免费使用其作品，借此机会，对他们表示由衷的感谢。

编　者

2003.3

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

推 薦 の 辞

近代における中国の日本語学習・教育は、清末に始り、すでに百年の歴史があります。ここ数十年では、日中国交回復と中国の改革・開放政策の実行で、二回の大きなブームが起こり、これから中国のWTO加盟で日中交流がいちだんと盛んになり、更に大きなブームが続くものと思われます。

幸いにも、私は1980年8月から5年間、日本と中国の共同事業としての日本語教師培訓班(通称大平学校)で、さらにその後の半年間、日本学研究センターで、中国の若い先生たちと、日本語を研究したり日本語の教え方を考えたり、また、中国で使う日本語教材「標準日本語」の編集に加わることもできましたが、この教材は現在中国で広く使用されています。私は、現在の中国の日本語教育のレベルは非常に高いものであると思います。

現在、中国における日本語の教材の中で、初級、中級の教材は優れたものがかなりあると思いますが、ハイレベルの上級用の教材はあるでしょうか。私が知っている上級用の教材は、日本の小説や随筆などから無難な部分を抜き出して並べただけのもので、それでは、現在の日本文化や社会事情を十分に理解する役にはあまり立たず、日本語のたしかな力をつける工夫もあまりなされているとは言えないようなものばかりです。現在でもその事状はあまりかわっていないのではないでしょうか。

此の度、呉侃・村木新次郎両氏の編集による上級日本語を拝見して、私がずっと気にしてきた問題がほとんど解決されたことにほっとしています。日本の現在のいろいろな姿を描き出して、鋭い問題提起をしている「課文」、その課文を読みこなすための親切なガイド「新出単語」、日本の抱える問題点を明確に示す「文化・社会」、日本語の理解と運用の力を確実につけてくれる「表現」と「使い分け」など、実にすばらしいもので

あり、他の教科書に見られないものです。また、最後には相当に難しい、高いレベルの「練習」があることも、この教材を使えば高いレベルの学生が養成される保証になっているかと思います。

以上、この教材を、日本語を勉強する皆さん、日本語の先生方に心から推薦致します。

北京語言文化大学名誉教授
西安外国語学院名誉教授
京都外国語大学教授
佐治圭三

凡　例

1. 生词按课文中出现的顺序及词形列出。其中汉字的注音放在括号中，课文中未写汉字、或只写出该词的一部分汉字的词，在括号中写出带汉字的全部词。
2. 每个单词都标注重音和词性。仅是名词或词组的省略词性。词性略语见略语表。
3. 单词用双语释义，但有些非常简单，用中文即可一目了然的词，省略日语释义。
4. 表达按照课文中出现的顺序列出。表达条目用假名书写，有汉字的将汉字列在后面。其中，通常使用该汉字的，用实心黑方括号(【】)；虽有汉字，但通常不写该汉字的用空心括号(〖〗)标明。
5. 略语表

〈名〉	名词
〈他五〉	五段他动词
〈他一〉	一段他动词
〈自五〉	五段自动词
〈自一〉	一段自动词
〈他サ〉	サ变他动词
〈自サ〉	サ变自动词
〈自カ〉	カ变自动词
〈形〉	形容词
〈形動〉	だ型形容动词
〈タルト〉	タルト型形容动词
〈副〉	副词
〈接〉	接续词
〈感〉	感叹词
〈接頭〉	接头词，前缀
〈接尾〉	接尾词，后缀

＊ 「使い分け」中表示“不能用”

目　次

第一課　蜂 …… 1
新出単語
表現
1. 絡む　2. 一面　3. のぞく　4. ～となく　5. 掛かる　6. ～て仕方がない　7. まるで　8. そろそろ　9. わざわざ　10. 代わり　11. に　12. 外れる　13. 現に　14. 控える　15. 都合　16. そっと　17. もしや
使い分け　抱(だ)く・抱(いだ)く
一帯・一円・一面
外れる・それる
留意語句
練習

第二課　日本語の表情 …… 24
新出単語
表現
1. せめて　2. どうにか・どうにも　3. かんかん　4. あげく　5. こそ　6. はしゃぐ　7. 模様　8. とかく　9. 吹っ掛ける　10. 華やか　11. き　12. 匂う　13. 先立つ　14. ～の～の　15. やたらに　16. むやみ　17. 振り回す
使い分け　批評・評論・批判
性質・性格
留意語句
練習

第三課　エチケット …… 44
新出単語
文化・社会　日本人の挨拶

表現
婉曲表現㈢前置き
1.どうせ　2.包む　3.まみれる　4.～がましい　5.～ば～だけ　6.～につけ(て)　7.～(よ)うものなら　8.先ず　9.掛かる　10.～たて　11.反面　12.なす　13.何とも　14.～抜き　15.ごと　16.～に変わり(は)ない　17.なおさら　18.凝らす　19.張る　20.～とは言え　21.～かと言って　22.～でいる　23.付く
使い分け　つつむ・くるむ
留意語句
練習

第四課　手作りのこま …… 71
新出単語
表現
1.いっぱい　2.見当　3.狂う　4.夢中　5.いかにも　6.向く　7.～よい　8.どうも　9.いずれ　10.ぴったり　11.もっとも　12.劣る　13.具合　14.手心
使い分け　具合・都合
ととのう・そろう
追う・追いかける
目指す・目掛ける
留意語句
練習

第五課　インドの旅 …… 90
新出単語
表現
1.こたえる　2.ども　3.～とも～ともつかぬ　4.およそ　5.～と言ったら　6.もむ　7.～にしても　8.もの　9.浴びる　10.ひたひた　11.余る　12.営む　13.改めて　14.さらす
使い分け　余る・残る
留意語句
練習

第六課　危険な宇宙ゴミが9000個、天空を飛んでいる …… 109
新出単語
表現
1.そもそも　2.心得る　3.やれ　4.だの　5.こともあろうに　6.分別
7.うち　8.ピンと　9.～とも言うべき　10.勢い　11.放題　12.及ぶ
13.に　14.馬鹿　15.馴染む　16.割　17.～にせよ　18.よくよく
使い分け　ため・ように
留意語句
練習

第七課　つきあたり …… 129
新出単語
文化・社会　下町
表現
1.素直　2.染みる　3.～たはよいが　4.～とばかり　5.あらたか
6.から　7.どんどん　8.～にわたって・～にわたる～　9.つくづく
10.盛ん　11.今更　12.なり　13.どきどき　14.抱える
使い分け　なんと～だろう(か)・どんなに～だろう(か)
留意語句
練習

第八課　小鳥の来る庭 …… 151
新出単語
文化・社会　高齢化社会と介助・介護
表現
擬声擬態語
1.さらさら　2.矢先　3.と　4.明ける　5.よう　6.よもや　7.思い立つ　8.べたべた　9.ぽつり　10.回す　11.憚る　12.たって　13.どころか　14.ぼろぼろ　15.おき　16.悩む　17.って
使い分け　潰す・砕く・壊す
押す・押さえる
留意語句
練習

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第九課　故郷 …… 176
新出単語
表現
1.～て・で～になる　2.こと　3.～ほかない　4.さすが　5.そこそこ
6.～かたわら　7.～からというもの　8.がりがり　9.きり　10.そっくり　11.っけ　12.たって　13.～掛け　14.気配　15.～ばむ　16.～やら～やら　17.～てたまらない　18.～通し　19.番　20.～がてら
使い分け　～やら～やら・～だの～だの
いろいろ・さまざま
なんとなく・なんだか
留意語句
練習

第十課　日本人気質 …… 209
新出単語
文化・社会　「建前」と「本音」
貸し・借り・恩返し
表現
1.っぽい　2.めった　3.たしなみ・たしなむ　4.ばかり　5.～に越したことはない　6.～も同然　7.言わずもがな　8.何でもかんでも
9.一つとして～ない　10.おまけ・おまけに　11.散々　12.すっぽり
13.きっちり
使い分け　結局・とうとう・ついに・最後
留意語句
練習

第十一課　落語・三方一両損 …… 230
新出単語
表現
1.塩梅　2.感心　3.向こう　4.～そうなものだ　5.ぐずぐず
6.～に(は)当たらない　7.まごまご　8.～にも～にも
9.ぞっと　10.相場　11.お節介　12.～ばこそ　13.預かる
使い分け　感心・感動
打つ・殴る・叩く

留意語句
練習

第十二課　ふだん着・よそゆき …… 251
新出単語
表現
1.決まって　2.いそいそ　3.足し　4.前　5.分　6.決まり　7.こまやか　8.一方　9.～も～ば～も　10.先　11.任せる　12.無理　13.～(よ)うと～(よ)うと　14.手前　15.そぞろ　16.ゆえん　17.～にせよ～にせに　18.面影
使い分け　理由・訳・いわれ・ゆえん・由
うきうき・わくわく・いそいそ・ぞくぞく
留意語句
練習

第一課　蜂

寺田　寅彦

私のうちの庭は、わりに背の高い四つ目垣で、東西の二つの部分に仕切られている。東側の方のは、応接間と書斎とその上の二階の座敷に面している。反対の西側の方は、子ども部屋と自分の居間と隠居部屋とに三方を囲まれた中庭になっている。この中庭の方は、垣に接近して小さな花壇があるだけで、方三間(三間四方。一間は約一・八メートル)ばかりの空き地は子どもの遊び場所にもなり、また夏の夜の涼み場にもなっている。

この四つ目垣には野生の白薔薇をからませてあるが、夏がくると、これに一面に朝顔や花豆をはわせる。その上に自然に生える、からすうりもからんで、ほとんどすきまのないくらいにいろいろの葉が密生する。朝、戸をあけると、赤、紺、水色、柿色さまざまの朝顔が咲きそろっているのはかなり美しい。夕方がくると、からすうりの煙のような淡い花が、しげみの中からのぞいているのを蛾がせせりに来る。薔薇の葉などは隠れて見えないくらいであるが、垣根の頂上からは幾本となく勢いのよい新芽をのばして、これが眼に見えるように日々成長する。これにまた朝顔や豆の蔓がからみついて、どこまでも空へ空へと競っているように見える。

この盛んな勢いで成長している植物の葉のしげりの中に、枯れかかったような薔薇の小枝からすすけた色をした妙なものが一つぶら下がっている。それは蜂の巣である。

私がはじめてこの蜂の巣を見つけたのは、五月の末ごろ、垣の白薔薇が散ってしまって、朝顔や豆がやっとふたばのほかの葉を出しはじめたところであったように記憶している。花の落ちた小枝をきっているうちに気がついて、よく見ると、大きさはやっとおやゆびの頭くらいで、まだほんのつくりはじめのものであった。これにしっかりしがみついて、黄色い強そうな蜂が一匹働いていた。

蜂を見つけると、私は中庭で遊んでいる子どもたちを呼んで見せてやった。都会で育った子どもには、こんなものでもめずらしかった。蜂の毒の恐ろしいことを学んだ長子らは、何も知らない幼い子にいろんなことを言っていましめたりおどしたりした。

自分は子どもの時には蜂を怒らせて耳たぶを刺され、さんしち(三七草)の葉をもんですりつけたことを想い出したりした。あの時分はアンモニア水を塗るというようなことはだれも知らなかったのである。

とにかくこんなところに蜂の巣があってはあぶないから、落としてしまおうと思ったが、蜂のいない時の方が安全だと思ってその日はそのままにしておいた。

それから四、五日はまるで忘れていたが、ある朝、子どもらの学校へ行った留守に庭へ降りたなにかのついでに、思い出してのぞいてみると、蜂は前日と同じように、からだをさかさまに巣の下側に取り付いて仕事をしていた。二十くらいもあろうかと思う六角の蜂窩の一つの管に継ぎ足しをしている最中であった。六稜柱形(六角柱の形)の壁の端をあごでくわえて、ぐるぐる回って行くと、壁は二ミリメートルくらい長くのびていった。その新たにのびた部分だけがきわだってなまなましく見え、上の方のすすけた色とは著しく違っているのであった。

一回り壁が継ぎ足されたと思うと、蜂はさらにしっかりとからだの構えをなおして、そろそろと自分の頭を今つくった穴の中へさし入れていった。いかにも用心深くそろそろとからだを曲げて頭の見えなくなるまでさし入れた、と思うと間もなく引き出した。穴の大きさを確かめてはじめて安心したといったように見えた。そしてすぐに隣の管に取りかかった。

私はこの歳になるまで、蜂のこのような挙動を詳しく見たことがなかったので、強い好奇心に駆られて見ているうちに、この小さな昆虫の巧妙な仕事を無残に破壊しようという気にはどうしてもなれなくなってしまった。

それからはときどき、庭へ下りるたびにわざわざのぞいてみたが、蜂のいない時はむしろまれであった。見るたびに六稜柱の壁はだんだんのびていくようであった。

ある時は、あごの間に灰色の泡立った物質をいっぱいにためていることが眼についた。そして壁をのばすかわりに、穴の中へ頭をさしこんで内部の仕事をやっていることもあった。しかしそれがどういう目的で何をしているのだか自分にはわからなかった。

そのうちに私は何かの仕事にまぎれて、しばらく蜂のことは忘れていた。たぶん半月ほどたってからと思うが、ある日ふと想い出してのぞいて見ると蜂は見えなかった。のみならず、巣の工事は前に見た時と比べてちっとも進んでいないようであった。なんだか予想がはずれたというだけでなしに、一種の——ごく軽い淋しさといったような心持ちを感じた。

それから後はいつまでたっても、もう蜂の姿は再び見えなかった。私はどうしたのだろうといろいろなことを想像してみた。往来で近所の子どもにでも捕らえられた

か、それとも、私の知らないような自然界の敵に殺されたのか、とも考えてみた。しかしまたこの蜂が今、現に、どこか遠いところで知らぬ家の庭の木立に迷って、あてもなく飛んでいるような気もした。

私は親しい友だちなどが死んだ後に、ひとりで街の中を歩いていると、ふとその友が、現に、同じ東京のどこかの町を歩いている姿をありあり想像して、言い知れぬさびしさを感ずることがあるが、この蜂の場合にもこれとよく似た幻を頭に描いた。そして強いまぶしい日光の中にキラキラして飛んでいる蜂の幻影が、妙にさびしいものに思われてしかたがなかった。

ある日、何かの話のついでにSにこの話をしたら、Sは私とはまるでちがった解釈をした。蜂は場所が悪いから断念してほかへ移転したのだろうというのである。そう言われてみれば、あるいはそうかもしれない。実際、両側に広い空き地をひかえたこの垣根では、嵐が吹き通したり、雨に洗われたり、人の接近することが頻繁であったりするので、蜂にとってはあまり都合のいい場所ではない。しかしはたして、蜂がその本能あるいは智慧で判断していったん選定した場所を、作業の途中で中止してよそへ移転するというようなことがあるものか、ないものか、これは専門の学者にでも聞いてみなければわからないことである。

もしSの判断が本当であったとしたら、つまり私は自分の想像の中で、強いてあわれな蜂を殺してしまって、その死を題目にした小さな詩によって、安直な感傷的の情緒を味わっていたことになるかもしれない。しかしいずれにしても私の幻想を無造作に事務的に破ってしまったSに対して、軽い不平を抱かないではいられなかった。そしてこんなささいなことがらにも、オプチミストとペシミストの差別は現われるものかと思ったりした。

今日のぞいてみると、蜂の巣のすぐ上には棚蜘蛛が網を張って、その上には枯れ葉や塵埃がいっぱいにきたなくたまっている。蜂の巣といいながら、やはり住む人がなくて荒れ果てた廃屋のような気がする。この巣のすぐ向こう側に真紅のカンナの花が咲き乱れているのが、いっそう蜂の巣をみじめなものに見せるようであった。

私はともかくも、この巣を来年の夏までこのままそっとしておこうと思っている。来年になったらこの古い巣に、もしやなにごとか起こりはしないかというような予感がある。

（「科学と科学者のはなし」　岩波書店　2000.6）

新出单語

蜂[はち]⓪	蜂,蜜蜂。
四つ目垣[よ・めがき]③	隙間が方形になるように竹を縦横に組んで作った垣。/方格篱笆。
仕切る[しき]②〈他五〉	境を作って他と隔てる。/隔开。
応接間[おうせつま]⓪	客厅,会客室。
書斎[しょさい]⓪	书房。
座敷[ざしき]③	畳を敷いた日本式の部屋、特に客間。/日本式房间,日本式客厅。
面する[めん]③〈自サ〉	正面から向かい合う。また、ある事態や事件などに直面する。/面临,面向,面对。
居間[いま]②	家族がふだん寛ぐ部屋。/起居室。
隠居[いんきょ]⓪〈名・自サ〉	仕事や家業、家庭の責任ある地位を退き、社会的な活動から遠ざかること、またその人。/隐居,退休;隐居者。
囲む[かこ]⓪〈他五〉	周囲を取り巻く。/围,围起,围上。
中庭[なかにわ]④⓪	建物に囲まれている小庭。内庭。/内院,里院。
涼み場[すず・ば]⓪	乘凉处。
朝顔[あさがお]②	牵牛花,喇叭花。
花豆[はなまめ]	多花菜豆。
はう[這う]①〈自五〉	1)腹ばって体を地につけて進む。/爬,爬行。2)虫などが面に沿って進む、または植物が地面や壁などに沿って伸びる。/爬,爬行;沿着……生长。
生える[は]②〈自一〉	1)草木などの芽が成長に伴って、伸びてくる。生じる。/长,长出。2)髪の毛、ひげなどが体の表面に伸びてくる。/长,长出。
からすうり[烏瓜]③	王瓜,土瓜。
すきま[隙間]⓪	隙,缝隙。
紺[こん]①	藏青色,深蓝色。
水色[みずいろ]⓪	浅蓝色,蔚蓝色。
柿色[かきいろ]⓪	黄褐色,土黄色。
淡い[あわ]②〈形〉	1)色、味、香りなどがあっさりしていて薄い。/浅的,淡的,微弱的。2)何かの気持ちがあまり強

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com